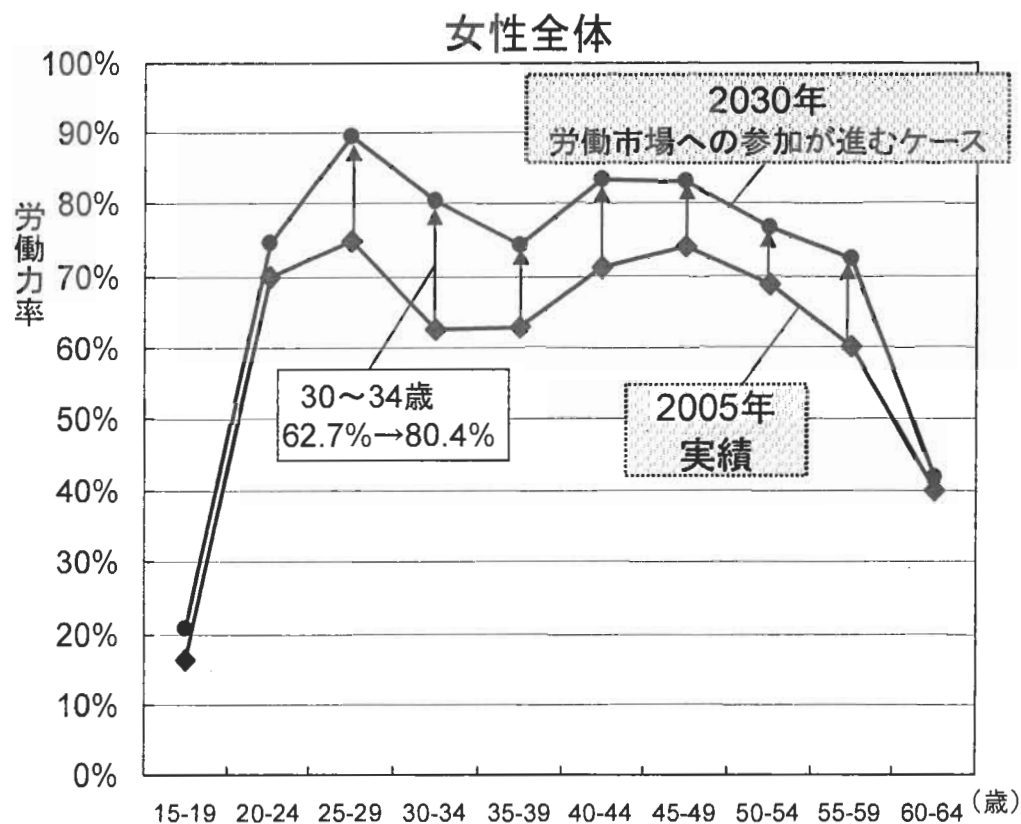
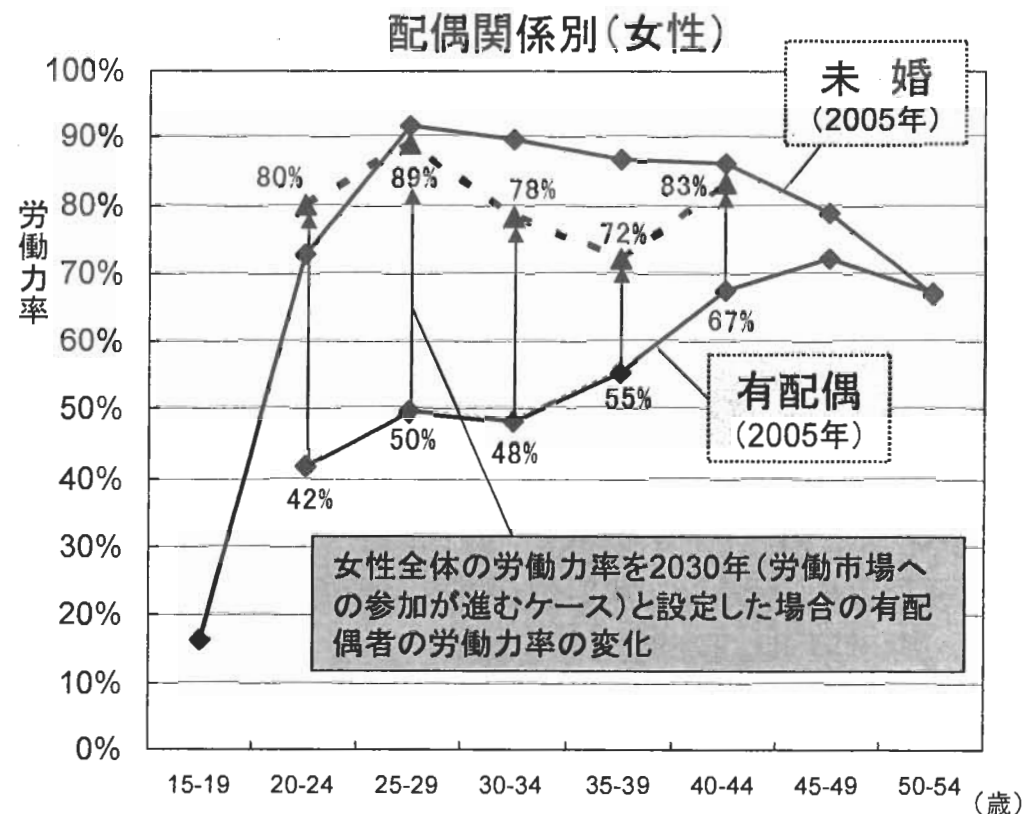


未婚率が低下した場合の女性の労働力率の変化－１



(資料)2005年は総務省「労働力調査」、2030年は雇用政策研究会の推計(2005. 7)

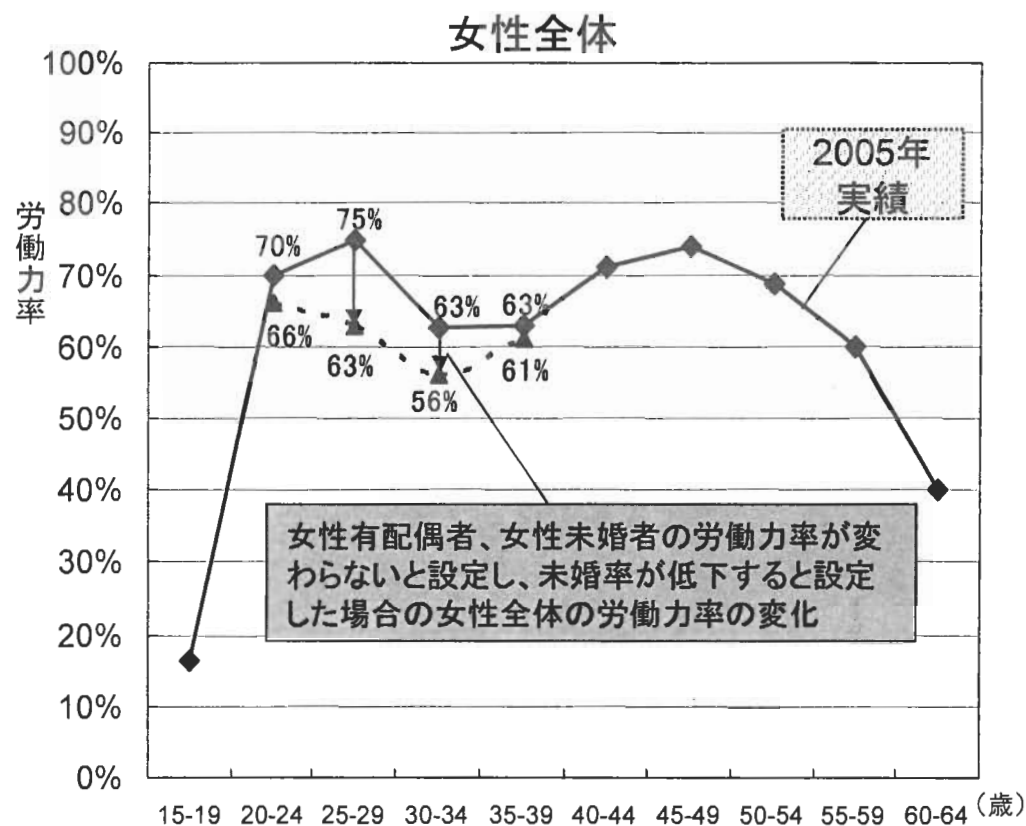


前提とした女性の年齢階級別未婚率の低下

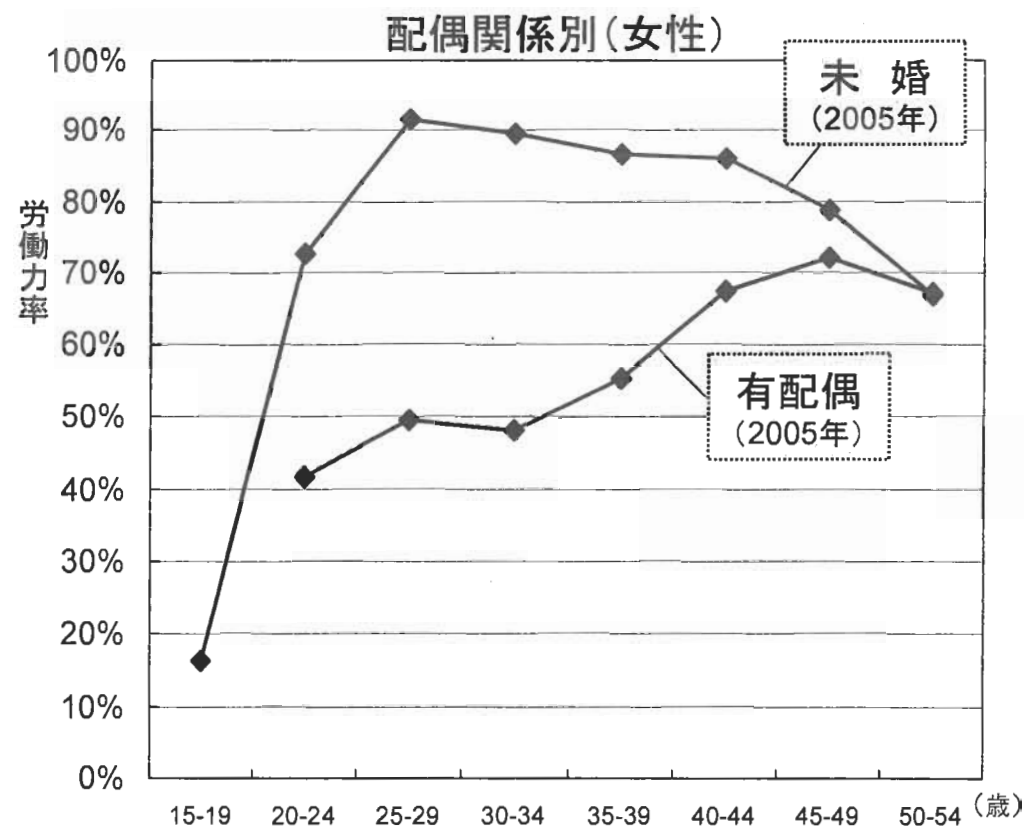
※ 平成17年労働力調査より算出された年齢階級別未婚率が、生涯未婚率が10%程度と見込まれる1960年生が当該年齢階級のときの水準まで低下するものと仮定

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳
未婚率の低下	89%→76%	58%→30%	30%→15%	17%→11%	11%→10%

未婚率が低下した場合の女性の労働力率の変化－２



（資料）2005年は総務省「労働力調査」



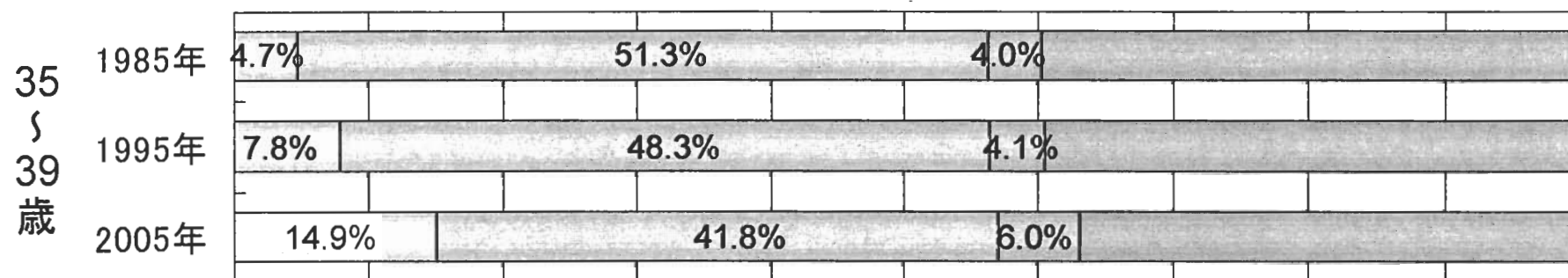
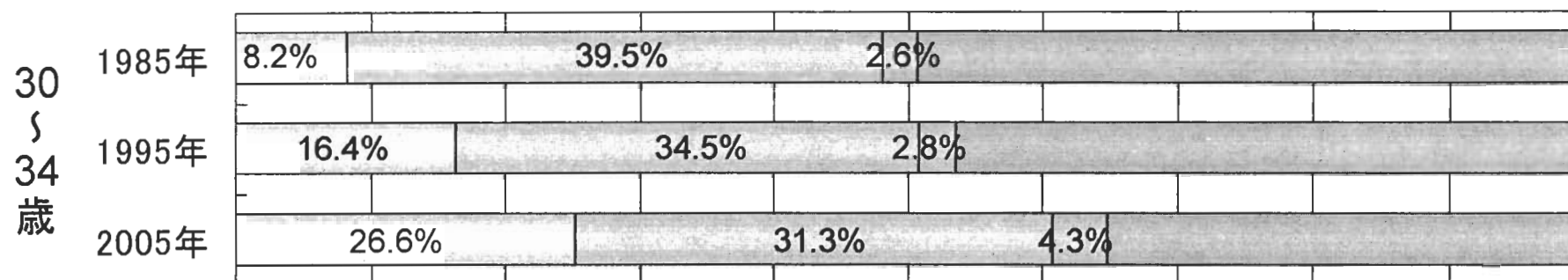
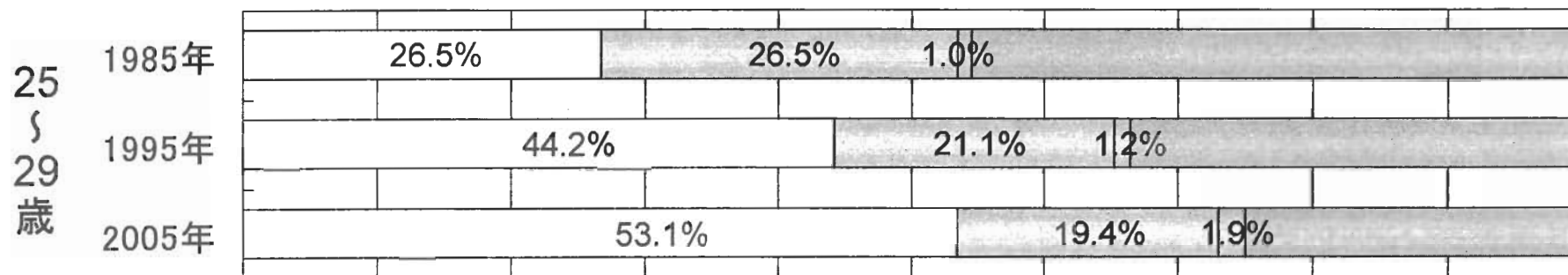
前提とした女性の年齢階級別未婚率の低下

※ 平成17年労働力調査より算出された年齢階級別未婚率が、生涯未婚率が10%程度と見込まれる1960年生が当該年齢階級のときの水準まで低下するものと仮定。

	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳
未婚率の低下	89%→76%	58%→30%	30%→15%	17%→11%	11%→10%

女子の労働力率の推移(配偶関係別に見た内訳)

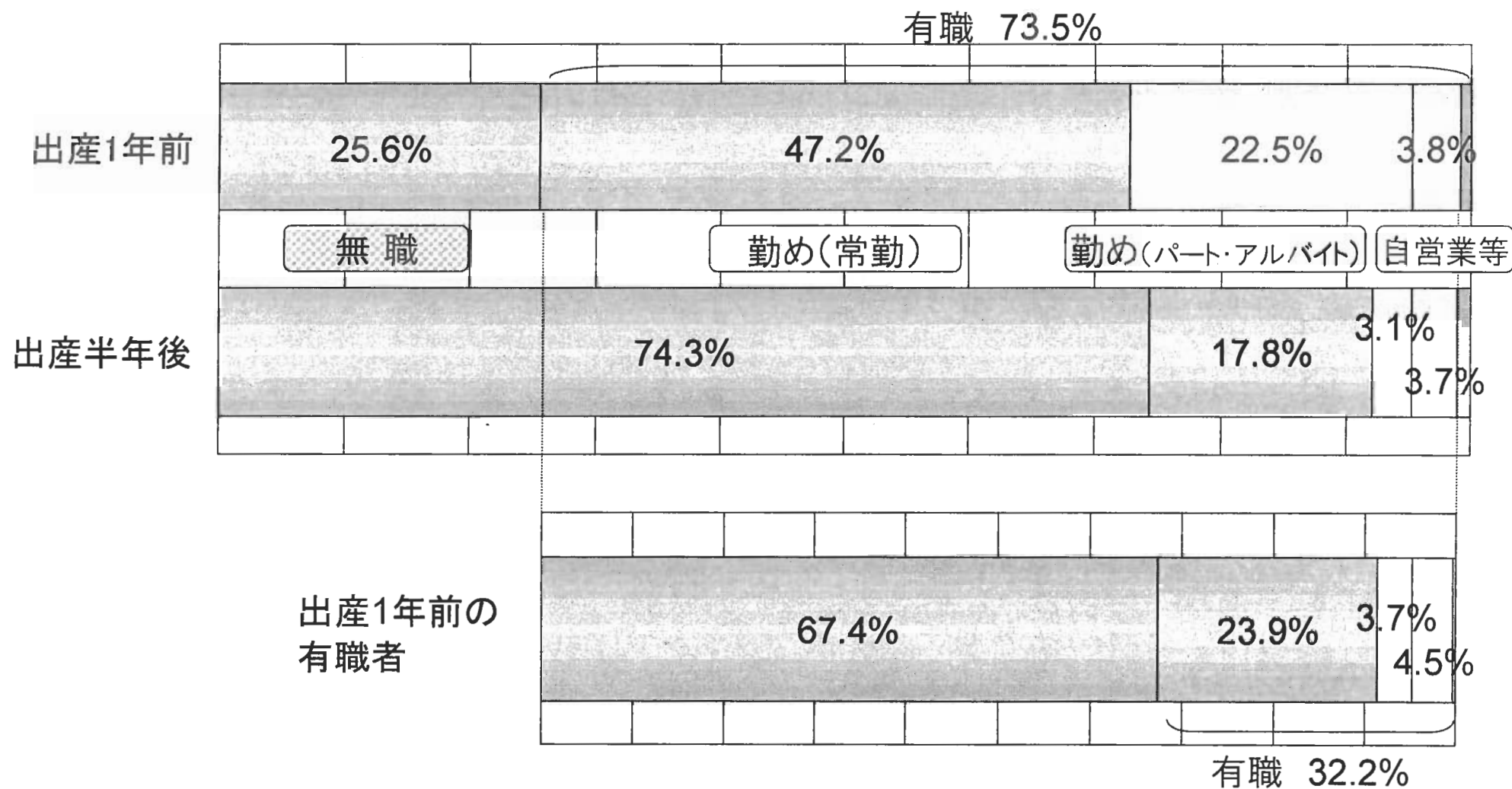
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



□労働力人口(未婚) □労働力人口(有配偶) □労働力人口(離死別) □非労働力人口

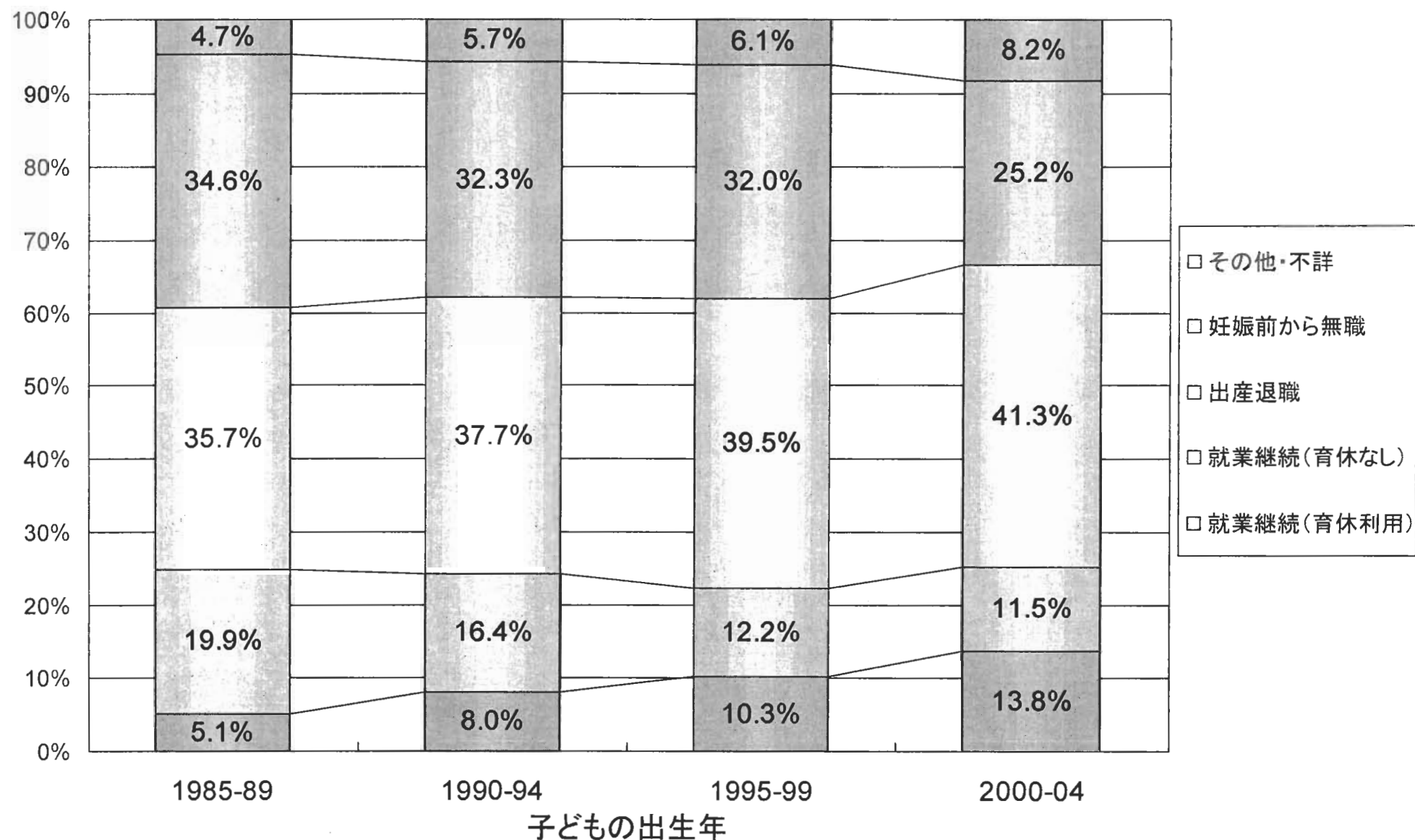
(資料)総務省「労働力調査」

第1子出産前後の女性の就業状況の変化



(資料)厚生労働省「第1回21世紀出生児縦断調査結果」(平成14年)

子どもの出生年別、第1子出産前後の妻の就業経歴



(資料)国立社会保障・人口問題研究所「第13回出生動向基本調査(夫婦調査)」